

LD、ADHDなど発達障害のある子どもたちの特性を正確に理解してほしい。
すべては、そこから始まります。

素晴らしい記憶力の持ち主なのに国語の音読がうまくできない、算数は得意なのに漢字を覚えることができない、昆虫や鉄道については博識なのに同年齢の子どもとのトラブルが多い、授業中に立ち歩いてしまう……このような特徴をもった子どもたちに出会ったことはありませんか。なぜこんなことができないのだろう、なぜ立ち歩くのだろう、と不思議に思われるかもしれません。

このような特徴を示す子どもたちの中には、LD(学習障害)やADHD(注意欠如多動性障害)、あるいはASD(自閉症スペクトラム障害)などの発達障害という障害をもつ子どもがいます。決して子どもたちがわざと先生を困らせたくて立ち歩いているわけではありませんし、学習中に怠けたりふざけたりして学習につまずいているわけでもないのです。

しかし、このような特徴をもつ子どもたちがいることを周囲の人たちが知らないと、子どもたちはどうしても注意されることが多くなりますし、学習場面では「できない」という経験を積み重ねることになってしまいます。このような子どもたちがいることを知ってほしい、そして適切な支援を受けて子どもたちに育ててほしい、という願いのもとに、日本LD学会は活動しています。

日本LD学会の会員は、教員や心理・教育・医療・福祉の研究者、行政に携わる方々、民間教育機関の支援者、そして保護者などで構成されています。子どもたちのために、そして子どもたちが生きやすい社会を作るために、正しい理解と支援方法を共に追求しませんか。

障害とは、理解と支援を必要とする個性である。


ご両親にも先生方にも
会社の方々にも
読んでいただきたい
リーフレットです

気づいてあげて。
すべてはそこから始まります。

 一般社団法人 日本LD学会
Japan Academy of Learning Disabilities

〒108-0074 東京都港区高輪3-24-18 高輪エンパイヤビル8F
tel.03-6721-6840 <http://www.jald.or.jp>



——— すべての子どもたちの個性を大切にする ———
 一般社団法人 日本LD学会
Japan Academy of Learning Disabilities

ごあいさつ

日本LD学会は、1992年、LDをはじめADHDやASDなど発達障害のある人々に対する正しい理解と科学的な支援を求める人々によって設立され、会員が1万人を超える大きな学術研究団体です。

そこには、幼児から児童・生徒の教育に携わる学校現場の教師、地域でさまざまな啓発などの実践活動をしている保護者、そして医療、教育、心理、福祉、労働、司法などの領域で仕事をしている専門家たちが参加しています。

私たちはこうした人々の抱える問題や困難にたいして、できるだけ早期に気づき、よりよく発達を保障することが何よりも大切だと考えています。

彼らが自分自身の力で自立し、社会参加していく道をしっかり拓いていくためにはよりよい支援が必要です、その土台となるのは科学的な研究と実践による経験の積み上げがなければなりません。

日本LD学会の背景にある、ひとりひとりの個性を尊重する考え方は、LDやADHDなど、発達障害のある子どもだけでなく、すべての人々の尊厳と生き方を大切にします。

私たちは、すべての人々がお互いの個性や障害を認め合いながら共に学び、共に生きていく、豊かな明日の社会をめざしています。

一般社団法人日本LD学会
理事長 柘植 雅義

一般社団法人日本LD学会とは

一般社団法人日本LD学会は、LD(学習障害)・ADHD(注意欠如多動性障害)等の発達障害に関する研究・臨床・教育の進歩向上を図るとともに、LD等を有する児(者)に対する教育の質的向上と福祉の増進を図ることを目的に、1992年に設立された学術研究団体です。

会員は、教育、心理、医療、福祉、行政などに携わる実践家や研究者、保護者等によって構成されています。

正会員：10,307名 | 名誉会員：21名 | 機関会員：49機関 | 賛助会員：2機関
(2019年7月1日現在)

入会条件

- LD等に関する科学研究・臨床および治療・教育に携わっている者の中で、原則として四年制大学卒以上の学歴を有する者
- 前項に準ずる者
短期大学・専門学校卒で、ST・OT・看護師・保育士等の資格を有し、教育・医療・福祉等の関連領域に従事する者

入会方法



入会をご希望の方は、ホームページの「入会案内」からお申込み下さい。理事会・常任理事会で入会審査(年6回)を行い結果を通知します。

詳しくはホームページをご覧ください。

URL <http://www.jald.or.jp>



主な事業内容

| | |
|--------------|--|
| 研究 | LD・ADHD・ASDなど、発達障害のある人々の実態を明らかにし、自立と社会参加に必要な支援のあり方を科学的に求めていく調査・研究を行っています。 |
| 年次大会 研究集会 | 会員が、研究・臨床・教育などの成果を発表し、新しい知識や考え方を学ぶための年次大会・研究集会を開催しています。 |
| 研究助成 | 「上野一彦基金若手研究奨励プロジェクト」を設立し、今後の学会および特別支援教育の発展に寄与することができる若手研究者の育成のため研究助成を行っています。 |
| 機関誌 | 会員の研究や実践の成果を掲載するための機関誌「LD研究」を年4回発行しています。  |
| 会報 | 会員がLD等に関する新しい情報を得るための会報を年4回発行(Web)しています。  |
| 連携 | 内外のLD関係諸団体等との連携を深めています。 (一般財団法人特別支援教育士資格認定協会 一般社団法人日本発達障害ネットワーク(JDDnet) 一般社団法人日本心理学諸学会連合 他) |
| 震災支援 | 震災の被害を受けた県からの依頼により、研修会の講師を派遣しています。研修会のテーマに応じて、専門性の高い会員が講師を務めます。 |

日本LD学会での成果を 実践の場で生かしていくために

特別支援教育士〔S.E.N.S〕という資格

「特別支援教育士(Special Educational Needs Specialist=略称S.E.N.S)」は、一般財団法人特別支援教育士資格認定協会が認定する、心理と教育の二つの領域にかかわる専門資格であり、LD・ADHD等のアセスメントおよび個別の指導計画の立案と実施ができる力を備えています。S.E.N.Sは、日本LD学会の正会員であることが資格認定条件の一つになっています。また、S.E.N.Sの上位資格である特別支援教育士スーパーバイザー〔S.E.N.S-SV〕は、特別支援教育に関する啓発活動や周囲の人たちへの指導助言、地域における支援体制の構築と推進等、社会的リーダーシップと専門性のある、特別支援教育の「真のプロフェッショナル」です。

本会での研究成果を実践の場に生かし、全ての子どもがより良い支援を受けて成長していくことができるように、多くの方にS.E.N.Sの資格を目指して頂きたいと思います。

詳しくは、一般財団法人特別支援教育士資格認定協会ホームページをご覧ください。

URL <http://www.sens.or.jp>

